

目指す学校像	百年余りの本校の歴史を大切に受け継ぎ信頼を土台とした子ども一人ひとりが輝ける学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> よさを見つけ、認め、伸ばすことで、児童一人ひとりが達成感を味わえる教育活動を展開する 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりと心豊かな児童の育成を図る 地域とともにある学校づくりを推進する 教職員の資質向上を図り、持続可能な教育活動を実践する組織づくりを行う
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和7年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>○令和5年度さいたま市学習状況調査の結果では、小3から小6まで、どの学年でも市平均正答率を上回り概ね良好な結果が見られる。</p> <p>○学力に反して、学習意欲に関する状況は、市平均を下回っている学年が、4学年中3学年とあり、学習意欲において課題が見られる。</p> <p>○学習における話し合い活動に課題が見られ、学び合いの場面やグループ活動において、自分の考えを深めたり、広めたりすることが十分でない状況が見られる。</p> <p>○タブレット等ICT機器の積極的な利用は進んでいる状況はあるが、子どもたちの思考を深める、伝えあい考えを広める等の場面で効果的な活用が十分ではない。</p> <p>○リフレッシュ工事で、活動場所の制限が加わり、運動の機会確保が十分でない。</p>	<p>主体的・対話的で深い学びの実現</p>	<ol style="list-style-type: none"> 学びのポイント「『じ・し・ゃ・く』でつながる学び」を意識した授業改善を推進する。 さいたまSTEAMS教育、さいたま市スクールダッシュボードの活用など、新しい教育課題の取組を積極的に推進する。 さいたま市スマートスクールプロジェクト等ICT環境を最大限に活用して学びの充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 市学習状況調査等で学習意欲に関する項目で令和5年度の数値を超えることができたか。 授業改善の視点を明確にした授業実践に取り組むことができたか。 児童の思考を深める場面でICT機器を効果的に活用することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題研修を中心に主体的な学習の推進の観点では「学びのポイント」を意識した授業改善、児童同士のかかわり合いの工夫の観点では、児童の考えの共有での授業改善に視点を明確にして取り組んだ。ICTの活用も、主に児童の考えの共有場面で活用方法について研究を深めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用では積極的に行われたが、教科の本質からして効果的であったかという点では課題が残る。教科の本質を再度確認しながら友好的な活用を目指していく。 スクールダッシュボードは、導入当初から比べれば活用が図られるようになってきたが、せっかく取ったデータを活用する所までは至っていない。 	<p>学校運営協議会による評価</p> <p>実施日令和7年2月13日</p> <p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> 1・2年生合同の交流遠足等異学年が一緒になった取組が素晴らしい。異学年で学び合うことで成果として大きなものがある。 5分前行動や日課でノーチャイムで過ごすことなど時間を意識して行動できることは大切である。 積極的に教員が充実した教育活動を行っている。 個別最適な学習、一人一人の学習支援を更に進めてほしい。
2	<p>○リフレッシュ工事(校舎)が昨年より開始され、B棟及びC棟が完了し、この4月から使用を開始している。使用開始に当たって、以前と使用方法が異なっていたり、安全防止装置がはずされてしまったりしている部分が見られ、事故防止の点から再度点検を行う必要がある。また、2学期からはA棟も改修が終了し使用を開始されるが、同様の配慮が求められる。</p> <p>○「心と生活のアンケート」で要面談とされている児童の割合が対象児童全体の26.6%と高い状態である。大きな生徒指導上の問題は今年度発生していないが、児童の心の健康状態については、常に注視していく必要がある。</p> <p>○危機管理体制の整備は実施されているが、機能しているか、形骸化していないかといった点で確認していく必要がある。</p>	<p>安心・安全で美しく整えられた教育環境づくり</p>	<ol style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高めた対応を充実させる。 ・「心のサポート 手引き」に沿った対応を確実に実施する。 ・アレルギー疾患等について保護者と連携した対応と事故防止を推進する。 リフレッシュ工事後の施設活用に計画的に取り組む、四季が感じられる潤いの環境づくりを推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 危機管理に関する自校マニュアル等の見直しと危機事案において適切な対応を実施できたか(検証)。 工事終了後、施設の有効活用や安全面の点検、確認がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理では、心肺蘇生研修等を計画的に実施することができ、重大事故を防ぐことができた。 食物アレルギー対応では、1件の誤食があった。児童への影響は見られなかったが、事故を受け、改善のための検討委員会を直ぐに開催し、事故防止の対策方法を練り、その後の事故は0にすることができた。 施設では転落防止の処置をとった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギー対応等危機管理については、令和7年度も年度当初において再確認し、事故防止を図る。 施設では、校庭整備に不備があるため、教育委員会と話し合いながら、整備を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつがよくなってきている。 校内では落ち着いてあいさつができています。 顔見知りの方とは地域でもあいさつができています。 元気に遊ぶ姿が見られ、子どもらしさが感じられる。 食物アレルギー対応における事故防止の取組は継続してほしい。
3	<p>○学校運営協議会が組織され、学校経営については概ね理解されている様子が見られる。次の段階として、地域の子どもを育ぐむのに学校、家庭、地域が三位一体となってどのように取り組むのか、協働での具体的取組を計画、立案実施していくことが求められる。</p> <p>○地域の教育力を学校教育に取り組むために、スクールサポートネットワークの活用を図る必要がある</p> <p>○学校だよりや学校公開等を実施し、学校の理解を促す取り組みを実施している。より充実化することにより開かれた学校づくりを目指す。</p>	<p>家庭と連携し、地域に根差した教育の推進</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「日本一心のこもったあいさつができる学校」づくりを推進し、誰に対しても挨拶ができる心と態度を育む。 道徳教育、人権教育の一層の充実を図り、多様性を認め合う「みんなちがってみんないい」の意識を、年間を通して浸透させる。 一人ひとりの児童の Well-being を大切に支援の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①②「あいさつ」や「思いやり」についての児童の自己評価で前年度を上回ることができたか。 あいさつ：「そう思う」70%以上 思いやり：「そう思う」60%以上 特別な支援を必要としている児童に対し、ケース会議等で適切な支援が検討され学校として、組織を生かして実施することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会では、熟議を通して育てたい子ども像の共有を図り、あいさつを中心とした協働の取組の道筋ができています。また、スクールサポートネットワークを活かした地域団体との連携も図れた。 学校安全ネットワークの組織を生かし、登下校時での事故を0にすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> あいさつについては課題が多く、学校運営協議会では、保護者、地域と学校が連携し、校内では生徒指導部、児童会を中心として引き続き「日本一心のこもったあいさつができる学校」づくりを推進していく。 支援を必要とする児童への支援方策の検討が十分とは言えないため、更に拡大して行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの一つとしてあいさつができる子を育てることは望ましい。 地域で育つことに感謝の気持ちを育みたい。 学校と公民館との連携ができています。
4	<p>○教職員の資質向上の研修は確実に行われる体制が築かれているが、指導力向上における研修が学校規模が小さいからか、盛んに行う処までには至らない状況が見られる。GIGAスクール推進等これからの教育課題に応えるためにも更なる研修の推進が望まれる。</p> <p>○時間外在校時間が長い職員が数名見られ、働き方改革への意識の差が見られる。持続可能な働き方を全職員で考えていく必要がある。</p>	<p>教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①持続可能な働き方の模索と意識改革を図る。 ②終業時刻原則18:30、時間外在校時間月45時間以内を意識したメリハリのある働き方を実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校課題研修を中心とした授業公開、研究授業を学年で1回以上実施することができたか。 ②働き方改革に関する研修、検討する場を設けることができたか。 ③時間外在校時間月45時間を超える職員を昨年度よりも減らすことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「個別最適な学び」「協働的な学び」、ICTの有効活用を授業改善の視点として学校課題を中心に取り組み、全学年で授業公開、研究授業を実施し、研修を深めることができた。 働き方改革の研修を実施し、持続可能な働き方を探究する意識を高めることができた。また、終業時刻18:30を意識して効率的な働き方をする職員が多くなり、時間外在校時間月45時間を超える職員は月平均21.6%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業、研究授業には取り組めたが、研究の視点に基づく授業改善では、十分な効果が得られていないため、取組を加速させていく。 働き方改革は随分と進んできており、在校時間が長い職員でも、その時間が少しずつ短縮してきている。引き続き意識改革と業務改善に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員ががんばっている姿が、夜遅くまで校舎に灯りがともっていることからよくわかるが、教職員の健康が心配である。